

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第76回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

これからの歯科用修復材料は どうあるべきか

—Bio-mimeticからBio-protective & Bio-promotingへ—

今里 聡 先生

大阪大学大学院歯学研究科
顎口腔機能再建学講座（歯科理工学教室）教授

平成25年12月16日（月）17:30～19:00
B1講義室（B棟1階）

歯科用修復材料には、従来から、強度、審美性、接着性、操作性、生体親和性などにすぐれることが求められ、長年の間に膨大な量の研究が行われてきた結果、現在は、これらの特性については臨床的に満足のいく製品が市販される状況に至っている。したがって、次世代の歯科用修復材料は、単にBio-mimeticだけでなく、生体の治癒に有益なBio-protective & Bio-promoting機能を発現する高次なレベルへと進化すべきである。

本講演では、われわれが開発した世界初の抗菌性接着システムを代表例とする修復材料への感染制御能付与のアプローチや、組織再生促進作用を備えたレジン系材料の開発等について紹介し、これからの歯科用修復材料のあるべき姿について考察してみたい。

モデレーター 高橋 信博（口腔生化学分野）